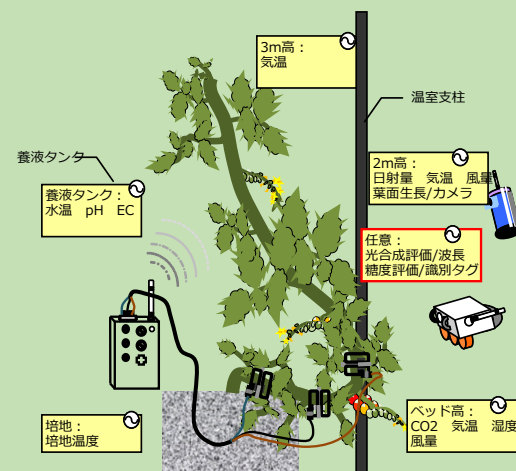


農作物栽培支援最適化システム事業概要

一般農家から植物工場まで、3つの技術を用いた最適な栽培支援システムを提供し、魅力ある農業労働環境の作り出すと同時に高付加価値な農作物を効率的に生産することを支援します。

- 光学生体センサー（単一センサーのみで生体の情報をとらえる）
分光センサーでの生体状況を測る。
- 生体アルゴリズム（生体の状況を予測して、指示をする）
生体をアルゴリズム（プログラム）化して自己制御可能となる。
- ICTを利用したデータ連携（低コストでの導入の通信システム）
インフラ（電源、通信網）にとらわれない）データ送信方法



実際のビニールハウス及び実験用室内プラントにて、過去の設備制御型の方法ではなく収量・品質（糖度や苦み等）・育成期間等を効果的にコントロールする 生体プログラムの開発を行うと共に、農作物自体の状況を把握するための生体センサーや ICTを利用したデータ連携等の仕組みも開発して、農作物栽培最適化支援システムのビジネスモデルを確立します。